



2024年3月期 第3四半期
決算説明資料

富士興産株式会社
(コード:5009)

2024年3月期 第3四半期決算状況

- 営業利益 **921百万円**(前年比 **254%**)、純利益 **652百万円**(前年比 **246%**)と前年を上回る実績
 - 石油事業は暖冬影響による販売数量減等により計画未達も、付加価値を訴求した提案型営業の成果等により、前年からは大幅に改善（石油事業営業利益 前年+256百万円）
 - その他事業は前年、計画ともに上回る好調な実績となり、石油事業の計画未達分を補填

2024年3月期 通期業績予想

- 営業利益 **930百万円**、純利益 **630百万円**
 - 4Qも暖冬による燃料需要の減少の影響が継続する見通しのため、通期業績予想は当初から変更なし
 - 当初方針通り、総還元性向100%を目安とした株主還元を実施予定（期末配当68円/株、年間配当96円/株）

	2024年3月期 3Q累計実績	2023年3月期 3Q累計実績	前年対比	2024年3月期 3Q累計計画	達成率
売上高	44,447	48,166	92%	-	-
営業利益	921	362	254%	765	120%
石油事業	6	▲250	-	140	4%
ホームエネルギー事業	104	70	148%	50	208%
レンタル事業	366	350	104%	280	131%
リサイクル事業	281	57※	493%※	180	156%
環境関連事業	163	133	123%	115	142%
経常利益	942	382	247%	-	-
純利益	652	265	246%	-	-

※2022年10月より新設のセグメントの為、前年同期は10-12月実績のみ

厳しい事業環境が継続し、計画は未達も前年からは大幅に改善

営業利益

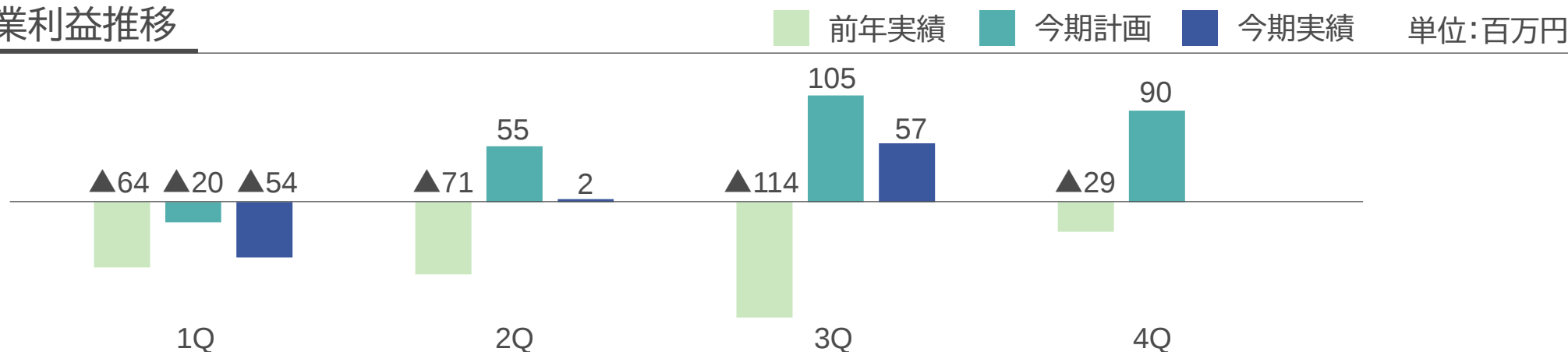
6 百万円

(前年同期比 +256百万円)

(計画比 ▲134百万円)

- 暖冬やエネルギーコスト高騰による節約意識の高まりの影響で、石油製品需要は前年を下回る低調な動き
- 石油事業の周辺製品やサービス等のラインナップを拡充し、付加価値を訴求した提案型営業を強化

四半期別営業利益推移



新規提案営業の強化による顧客増により、前年・計画とも上回る実績

営業利益

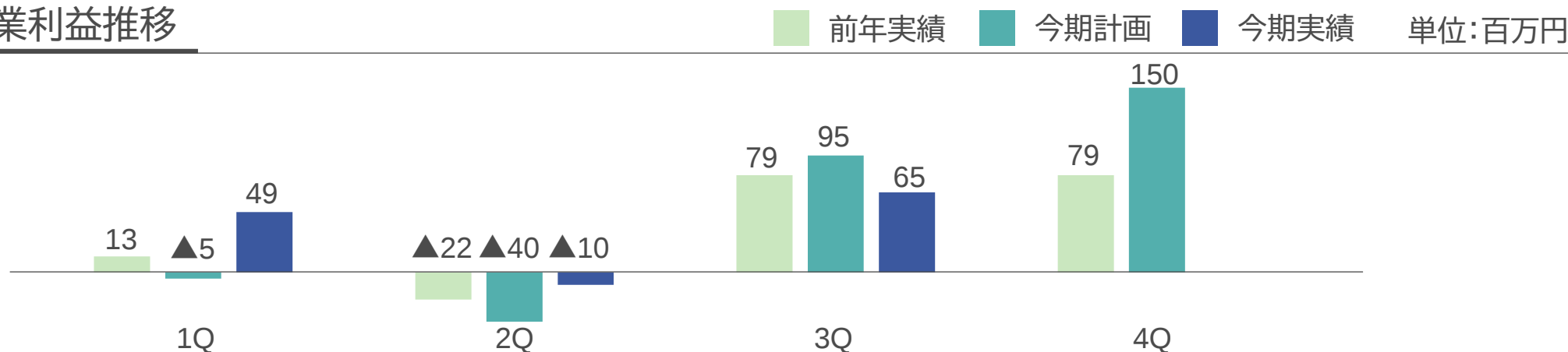
104 百万円

(前年同期比 + 33百万円)

(計画比 + 54百万円)

- 暖冬や物価高による節約意識の高まりの影響で1世帯当たりの燃料消費量は減少
- 一戸建て住宅を中心とした新規提案営業に注力するとともに、安定供給体制の拡充、サービス水準を向上

四半期別営業利益推移



好調な工事需要を着実に取り込み、前年・計画とも上回る実績

営業利益

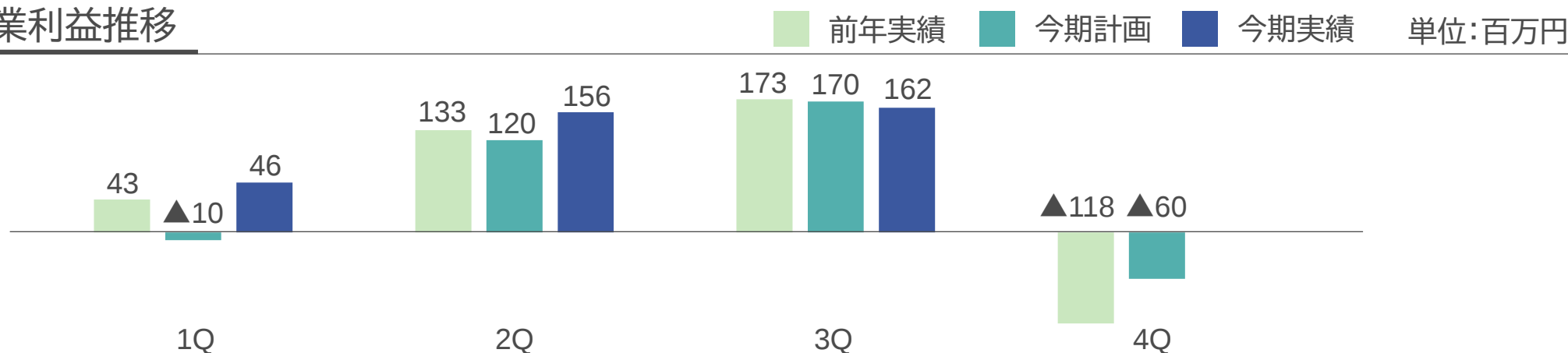
366 百万円

(前年同期比 + 15百万円)

(計画比 + 86百万円)

- 北海道における公共工事は堅調に推移し、建設機材の需要も旺盛な状況
- 顧客ニーズに即したレンタル建設機材のラインナップ拡充により、売上高・利益を最大化

四半期別営業利益推移



顧客や地域社会のニーズに応える事業活動を推進し、前年・計画とも上回る実績

営業利益

281 百万円

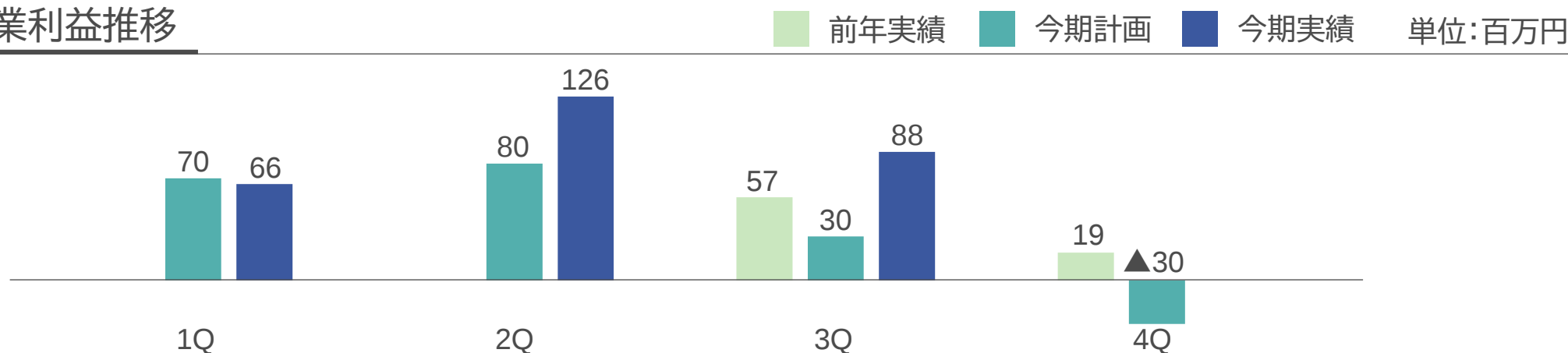
(前年同期比[※]+224百万円)

(計画比 +101百万円)

※2022年10月に新設したセグメントのため、
前年同期は10-12月実績のみ

- 持続可能な社会の構築に向けた動きの中で、資源リサイクルに対する社会の要請は一段と高まる
- 全道における同業者や当社グループ各社との連携を深め、より多くの顧客や地域社会のニーズに貢献する事業活動を推進

四半期別営業利益推移



太陽光の好調な発電とアドブルー※の販路拡大により、前年・計画とも上回る実績

営業利益

163 百万円

(前年同期比 + 30百万円)

(計画比 + 48百万円)

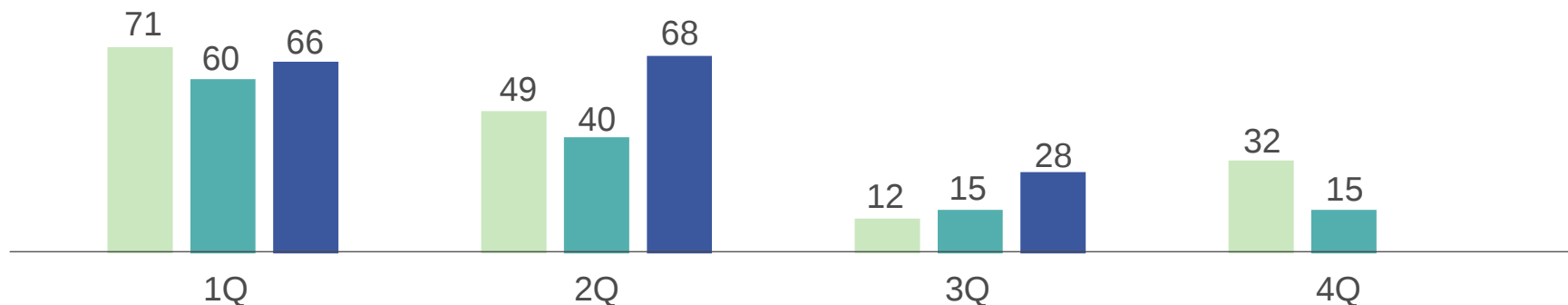
- メガソーラー発電事業は晴天に恵まれ、売電量は順調に推移

- アドブルー販売は、販売チャネル拡大の為、ホームセンター等の小売店向け販売を強化

※アドブルー(AdBlue):ディーゼル車の排ガス中の窒素酸化物NOxを無害化する「SCRシステム」に使用させる高品位尿素水

四半期別営業利益推移

■ 前年実績 ■ 今期計画 ■ 今期実績 単位:百万円



暖冬による燃料需要減少等の影響の継続が予測されるため、当初予想から変更なし

	2024年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 通期業績予想	進捗率
売上高	44,447	65,900	67%※
営業利益	921	930	99%
経常利益	942	950	99%
純利益	652	630	103%

各事業の4Q取り組み

(石油) 冬期燃料油需要の確実な取り込み
及び提案型営業の更なる推進

(HE) 新規顧客獲得活動及び既存取引先
との関係強化による収益拡大

(レンタル) 新年度に向け、民間建設投資を
中心とした建機需要の取り込み

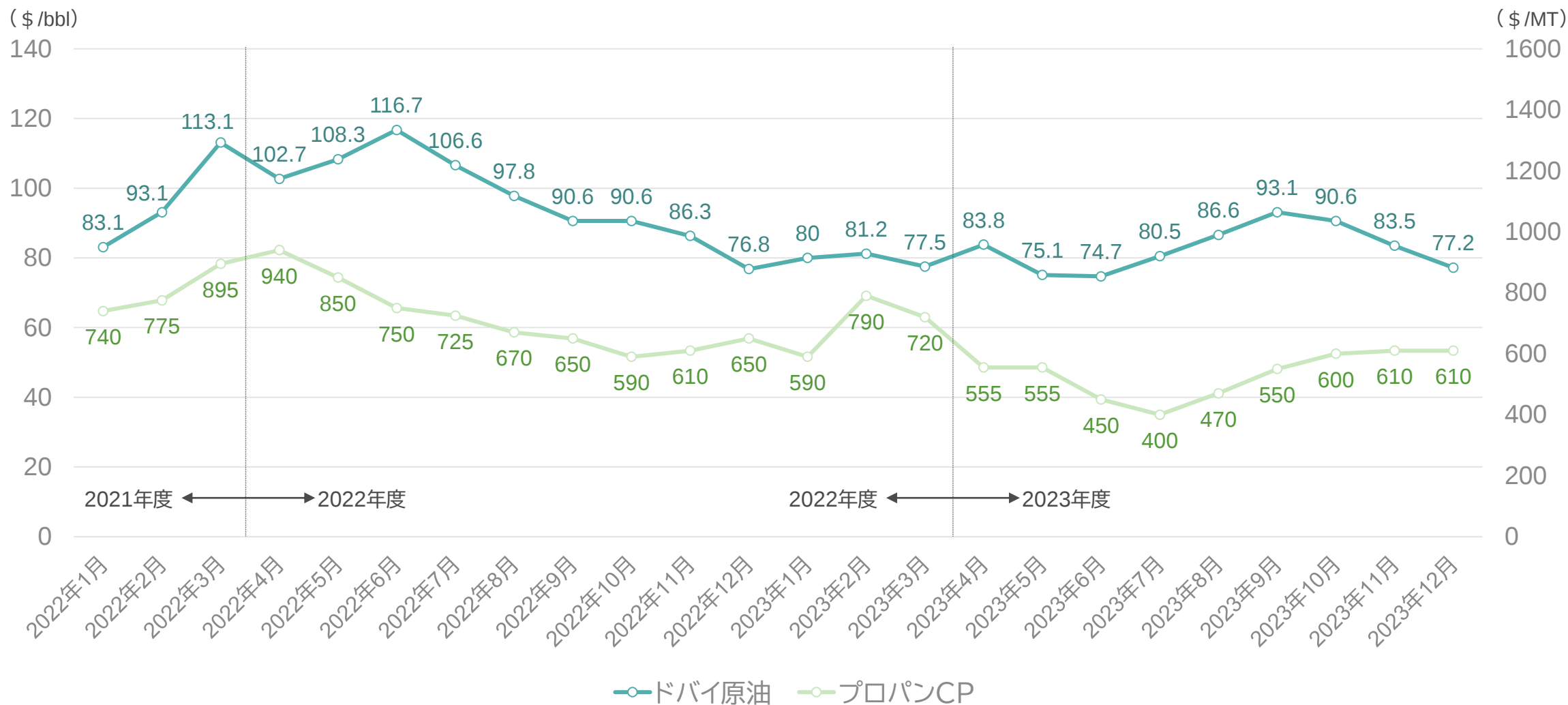
(リサイクル) 再生重油の供給拡大に向けた
廃油回収先の確保

(環境関連) アドブルーの安定供給体制強化
及び小売店向け販売拡大

※石油事業が売上高の大半を占めており、原油価格の変動に大きく影響を受ける

	単位	中間(実績)	期末(予想)	合計(予想)
純利益	(百万円)	373	257	630
配当総額	(百万円)	184	447	630
配当単価	(円/株)	28	68	96
対象株数	(千株)	6,577	6,584	-
自己株式取得	(百万円)	-	-	-
総還元額	(百万円)	-	-	630
総還元性向	(百万円)	-	-	100.0%

参考：原油価格・プロパンCP推移表



- ・資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社および情報提供者は一切責任を負いかねます。
- ・当資料に記載されている当社の現在の計画等は、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらにより将来予測・業績予想には、リスクや不確定な要因を含んでおります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。